

## 平成 29 年度第 1 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 29 年 8 月 4 日（金）13:55～16:10  
会 場：北海道立図書館 会議室  
出席者：協議会委員 7 名、道立図書館職 15 名  
傍聴者：0 名、（その他、北海道通信社記者 1 名）

### 議事等

#### 1 議題

- (1) 平成 28 年度業務実績について
- (2) 新しい北海道立図書館事業推進計画について

#### 2 その他

会議概要 （○～委員の発言 ●～道立図書館職員の発言）

- （開会前） ・ 4 月 1 日付けで異動した道立図書館職員の紹介  
・ 平成 29 年 6 月 27 日付け任命委員のあいさつ

#### 1 議題

- (1) 平成 28 年度業務実績について  
伊藤利用サービス部長説明・・・資料 1  
伊藤総務企画部長説明・・・資料 3

○ただいま、業務実績の概要と進捗状況について説明していただきましたが、施策目標ごと、7 つに区切って意見等をお願いします。

まず、施策目標 1 の市町村支援、まちの図書館を応援しますという区分で、何か質問や御意見はありますか。

○次の課題解決型サービスや道民向けサービスとも絡むと思うのですが、高齢者向けサービスとか医療サービスとかを充実させるべきだと思うんです。

もちろん、子どもたちや学校も大切ですけれど、毎年 300 くらいの学校が消えている、とにかく学校が小さくなって消えていると聞いています。すごく残念なことに子どもたちがどんどん減っていくんですね。その一方で、高齢者が増えてきて、病気を抱えているかもしれない、介護が必要かもしれない。行政にとっては、皆さん元気でその街にいてくれることが大切なんですね。それが、介護費用の圧縮になっていくことや医療費減につながっていたり。

そこに図書館がどう貢献できるか、というのをこれから見せていく必要があると思います。

子どものところでは発展したサービスの形、例えばテーマをセットにして貸し出すということができているんですね。

そういうことを高齢者向け施設についてもやっていいと思っているんです。

高齢者向け施設というと教育委員会の外に出ること（管轄外）で、連携に関して工夫が必要になるかもしれませんが、いろんなところの介護施設とか病院の施設であったりとか、介護施設でも色々とレベルがありますが、そういうところでは確実にニーズがあって、全国的にもそういうサービスが増えていると私は認識している。

回想法は認知症に効果があると言われている。昔のもの、写真・洋服などのグッズを図書館からそういう施設に貸し出すサービスもあるんですね。

これから北海道の市町村の中で老人化率が5割みたいな市町村も増えていく中で、それを図書館がどうサポートしていくかということは重要な問題だと思っています。

それを市町村支援のなかに組み込んでいくことが必要なんじゃないかと思っています。

○ありがとうございます。高齢者や障害者のサービスは3番目の道民向けサービスで出てくるんですけど、市町村の過疎とか高齢化が進んでいくわけだからそういうことも踏まえたサービス支援を考えた方がいいという指摘であれば、まちの図書館を応援しますということと係わって議論ができると思います。

今の御意見は基本的には非常に大事だと思います。

回想法は博物館や美術館でかなり進んでいるし、老人福祉施設でも随分と試みられています。図書館もそういう役割を果たすことができるというのは、まさしくそのとおりだなと思います。

今のことと係わってもいいですし、改めて高齢者とか障がい者とか社会参加の難しい人たちに図書館がどういうふうにするのかというのはとても大切な側面ですから、その後議論します。

まず、「まちの図書館を応援します」、市町村支援という点で今の御意見に付け加えて皆さんから何かございませんでしょうか。

○道立図書館には特に相互貸出しとレファレンスにお世話になっています。

そのレファレンスですが、公立図書館からの数が減っているような説明や問い合わせが固定化しているというのもありましたが、傾向とかは掴んでいるんですか。

●道立図書館の横断検索を整備することによって、単純な所蔵調査は一般の方はもちろん図書館の方もわざわざ道立図書館に問い合わせなくても解決できる率が上がっているというのが、第一の要因かと考えております。

事項調査についてはそんなに大きく落ち込んでいるということはないと思いますので、所蔵調査の数が減ることで全体の数が減ってきているというのが、全体的な分析になるのかと思います。

○次の課題解決型サービスはいかがでしょうか。

○質問よろしいでしょうか。課題解決型の下から5行目6行目くらいのところに「情報リテラシー向上のため」とあるんですが、「暮らしに役立つ図書館講座」として、「バリアフリーを考える」「地球温暖化と交通の関わり」というテーマで実施し、とあるんですが、情報リテラシーというテーマとこの課題、具体的にはバリアフリー、地球温暖化とはどういうふうに関連するのでしょうか。

●テーマがバリアフリー、温暖化となっております。テーマに合わせて当館で所属しております関連の資料を会場に並べ、講師から講話を受けてから、実際に関連した資料を御覧くださいということです。

それがリテラシーということです。

○課題解決サービスについて、他にございませんか。

次の道民向けサービスについて御意見を伺いたいと思っております。

先ほどの御意見は高齢者と高齢化に向けたということでしたが、必ずしもここではなく、デジタルライブラリーの充実というのも、例えば戦後開拓の資料をみんなで見ながら回想法でやるとか、いろいろなところと係わっていくと思うんです。

この道民向けサービスについてはいかがですか。

○道民向けサービスの直接の記述に係わることではないんですが、以前申し上げたんですが、北海道の一番の問題は路面の書店がなくなっているということなんですね。

先ほど、どなたかが仰った検索というツールを私たちはみんな持っていて、スマホだとか PC を通じて書物に自分のテーマに沿ってアクセスするっていうのはもっているんですけど、路面の書店がなくなると出会い頭の情報というか特別調べたい訳ではないけれど、世の中にこんなおもしろい本があるんだという出会い頭の情報に、例えば子ども達であるとかお年寄りであるとかが会おうきっかけがどんどん少なくなってくる。

今まで私たちがまちの書店で得られたことを図書館が代替していくような、新しい潮流を満たしていくということも 21 世紀頭の図書館の役割かと思うと、デジタル化も大事だと思いますが、繰り返しになりますが、まちの図書館がなくなること代替するような機能を道民向けに、図書館として持っていくということを模索されてはどうか、と考えてる今日この頃です。

○基本的には、身近なところに図書館があるということを支援するということが、道立図書館の 1 番目の役割ではないかと思っております。

○アウトリーチのサービスを展開していくとか、細やかにやっていかないと、座してお客さんを待つ時代ではないと思うんですよ。

そういうことでは、道立図書館のみならず市町村の図書館も一緒ですね。

ブックシェアリングとか NPO の活動もありますけれど、それと互して戦っていく、サービスで NPO に負けない公立図書館の力とかパワー、意欲を示していくべき時期ではないかなと常々思っています。

○ありがとうございます。私も 1995 年に北海道書店組合から頼まれて、北海道の書店調査をやったことがあって、そのときの中心になった本屋さん全部なくなっている。

そういう意味では、北海道の中核都市にあった個人というか系列ではないそれぞれの地域の書店は全てなくなっている。

○ところで、砂川市にある書店が、選書、一万円選書で全国的に発信している例もある訳でなくなる悪い面ばかりでなく、なくなったらそれを代替する新しいサービスを編み出していく人間の英知、そういうものもあると思うので、そこを信じて采配とかリーダーシップとか先行事例を示していくっていうことをやってほしいと思っている。

○書店の社長さんと前に「図書館と本屋が共生できるまちづくり」をテーマに 1 回シンポジウムみたいなことをやってみませんかと話したことがありますが、書店と図書館がどっちも元気になるようなつながりを地域でつくることのできるのか、というようなことを考えているわけです。

どうもありがとうございます。

○とても賛成です。今、アウトリーチングという言葉が使われましたが、ブックモバイルなんかも、もっと増えていいと思っているんです。（立地的には）交通の便だったりとか足が悪かったりとか、来る人からみればこちらから出ていくんだという形で、例えば地元の書店と協力してもいいけれど、もっと地域のブックモバイルとか走らせて今NPOでもそういう活動増えていますけれども、道立がそういうところをイニシアチブを取って、まち・まちの隅々まで入っていくということをやっているかなと思っています。

ここでもう1つ。来館者数が頭打ちの話がありましたけど、ここは場所的な制約からいっても滞在型を目指すべきと思っているんです。ちょっと寄っていくという場所じゃないじゃないですか。

いかにここで長く心地よく滞在してもらえるかということを考えないと、人は増えない。

この図書館は心地よさをもっと大事にしていると思っています。

人が滞在する仕組みをもっと入れないと（入館者数の増加は）無理だと思う。

○昔、学生とワークショップをやったことがあって、「どういう図書館が未来型図書館になる？」って聞いたら、学生の面白いアイデアがあって、「それは心地の良いベッドのようなソファがあって寝れる図書館」と言った学生がいた。図書館に寝に行くっていう発想がすごくいいと思うんです。

寝て、フッと起きて本が目の前にあって、じゃ読もうか、なんてね。そういう新しいニーズを捕まえて、従来の既成概念を打破していくようなそういう発信をするには素晴らしい場所だと思うんですよ。

予算も十分あると思うので、是非チャレンジングなことに、この前も言いましたけれど会議も踊るような会議にしたいなど、本当に思うんですよ。

○ありがとうございます。「図書館の図書館」としての役割、ある意味ではこれからの図書館のあり方はこうだって実験的に取り組むという道立図書館の2つの役割を乏しい予算のなかでバランスを取るってずっと苦労されていると思うんですけれども、ある意味ではそういうこともやらないと予算がなかなか増えていかないってこともあって、どこかでそういう積極的な何か取組を。まだまだいろんなことがあります。快適であるとかいうこともあるし、御近所の方に積極的に図書館の運営に参加してもらうような、例えばボランティアをやってもらうとか、いろんな新しい試みをちょっとがんばってやってもらうということはあると思う。

ただ、そういう事情を抱えながらやってきたという難しさもある。

○どうでしょうか。「図書館の図書館」という機能・役割を果たしているんでしょうか。

○道立図書館は多種多様なことをして本当に大変だと思っています。

例えば来館型サービスをするにはこの図書館では限界があると思うので、目標を絞ったほうが効果が上がるんじゃないでしょうか。

来館型、滞在型サービスと、仰いましたよね。

ハード的にこの施設だったら、なかなか無理なこともあると思うんですよ。

○そんなことないですよ。

これだけ立派な側があれば、なかの機能だとかソフトを変えていけばここも素晴らしい施設になると思いますよ。

それとは別に「図書館のための図書館」という機能もあるとは思っているので、その部分を

本当にきちんと役割を果たしているのかなあとって。事業が網羅的すぎて、どこかにピタッとフォーカス当たっているのかなって。

○網羅的などというところと言うのは本当によくわかります。でも「図書館の図書館」としての役割は、やはり北海道の図書館は充実しているところとしていないところと差があるので、これだけいろいろな地域がある中で、よく対応されていると思います。

一方で新しいサービスというのはリーダーシップを取ってやっていかなければならないというところでは、道立図書館に対し、市町村はすごく期待しているところなんです。

そうすると、こんなにいっぱい目標を掲げて全部はできないだろうなと思うんです。滞在型については、市町村がやるんじゃないのかなと思ってているんですね。

○元々がここで本を読んで貸出しを求めて来るようなたくさんの方が集まるということ想定しないで始まったのですが、そこから少しずつサービスを広げてきたというか、施設も良くしてきたという経過がある。でも、抜本的に市町村の図書館がやっているということは、財政的にも難しいと思います。

ここに全道の市町村の図書館職員が集まって、そういうことを地域でやるにはどうしたらいいかって研修の中心になっていたりして、そういうことが道立図書館の大事な役割、そういう場所。

道内の図書館職員が集まって、ここで実験的なことも含めて交流できるようなそういう場所にしていくっていうのは、道立図書館の大事な仕事ですよ。

ただ、施設全体をそういうふうにしていくっていうのは、今の現状の中ではなかなか。

少しずつは努力していけるかとも思うけれど、抜本的に改めるというのは建物そのものがかなり無理な構造になっている。いずれ改築ということも当然でてくるということはあるかもしれない。

○道立さんから直接新しい試みをして市町村立図書館の見本となるようなことは非常に大事だと思う。市町村でやりたいんだけどなかなかできないことを道立図書館でやって、これだけなんだからっていう行政に対する市町村立図書館員の説得材料となる。そういうことで新しい試みをしてもらえることは市町村にとってありがたいことだと思う。

今の若い人たちはネットで調べて満足している。

ネットの情報に色々変なものがあることを知らない。

まず、ネットで調べて、たいしたことがなければそれで済ませてしまう。図書館に行かないんですよ。学生ですら図書館に行かないんですね。

北海道のなかで、本屋も図書館もない町村ってあると思うんですよ。

そういうところって、生の本を買えないわけですよ。うちで関係していた雑誌でデジタル化するって話があったんです。

デジタル化するとお金は安くなるけれど、実際に本屋に行って「あっ、こんな本あるんだ」って手に取って見てもらえる確率はゼロになってしまう。

本屋に行くと目当ての本のほかに、売り場に同じような本があれば「こういう本がある。買っていかうか。」となる。

それは本屋・図書館に行って初めてわかる。

ネット通販（の本部門）で「小樽」と検索したら、「小樽」ってダーっと並びますけど「札幌」っていうタイトルの本に「小樽」ってばらばらに見ると、わからないですよ。

それが図書館なり本屋に行けば「北海道」っていうところに「小樽」関係の本が売っているとか、そういうことがあるんです。

そういう「出会い」の提供をするってことがこれから大切になるかと思う。

今の人はスマホとかパソコンとか、子どもの頃からあって、そっちの方が主流になってきている。特に高齢者だと、パソコンもスマホも持っていない人が図書館に行ってそういう説明をされるとすごく頭にくるんですね。スマホもパソコンも持っていない人は相手にしないというのかって非常に怒っているんですね。

そういうことがないようにしてほしい。

○それをするために全道のそれぞれの図書館のないところも濃淡つくってほしいと取組をしていることが第一にあって、さらに不十分な条件のもとだけ道立図書館としてもそれなりの努力をしていくっていう組み立てにしながら議論しているわけですけど。

そもそも道立図書館がどんな役割を果たすのかっていう、7つの施策目標の1つ1つに当てはまる話ではなくて全体の運営というかミッションの話になってしまっていますが、それはそれで意味があります。

そういうことも踏まえながら道民向けのサービスの話をしたんですけど、それ以降の「子どもの読書活動の推進」だとか「北方資料サービス」、「連携する図書館」、「資料整備」。

さっきのテーマでいうと、例えば図書館の資料を使って回想法をいかに取り組むかという研修を道立図書館でやるとか、そういうようなことは道立図書館でできるわけです。

○先生の御専門かもしれませんが、例えば子ども達にどう接していこうかという子どもの研修は充実してできるけれど、お年寄りにどう接していこうかという研修はすごく少なくて、実際に回想法をやり始めたり、高齢者サービスをやり始めたりする図書館員は認知症の方にどう接していいかすごく戸惑ったりすることがあるって聞いている。

認知症の方もおとなしい方もいれば、いきなり暴力的になったりするような症状を起こす方もいる。あるいはふだんは平気でもちょっとした何かでコミュニケーションが全然とれなくなってしまうこともある。

そういうときに、図書館員がどう接するかっていうトレーニングが圧倒的に不足している。そういうときに、どう接していくのかという市町村の図書館員向けの研修とかを率先してやっていけたら、今求められている重要な役割になると思う。

○今、回想法のことをいいましたけれど、図書館とボランティアがどういう関係を築いたらいいのかとか、道立図書館としてそれを活かしながら、地域の人たちにもっと積極的に関わってもらえるようなあり方を追求するとともに、そういうことを通じながら道内の市町村立図書館に貢献するっていうようなことは要望としてはいいのではないかと。

積極的な意見をありがとうございます。

もう少し全体を通じて御意見を伺いたいと思います。

○先ほど先生が仰ったように道立図書館の役割をもう少し明確にする必要があるかもしれない。

例えば、道民向けサービスを取ると、先進的な取組をして市町村のモデルになっていくモデル事業を道立の役割とするならば、目標数値のあげ方が違う。

ここはとにかくがんばってやろう、ほかのところは統計的には取っていくけれども動向を見ていく、達成率何%とかきつい目標ではなく緩やかにして取るとか、メリハリをつけた方がいいと思います。

○議論の仕方があると思いますが、この計画自体は全道的なことをどうするかということに基本的には重点が置かれていて、市町村立図書館のようなことでいうと、目標数値は控えめにしか設定していないことは道立図書館の特徴になるっていうことですけどね。

ただ、それをもう少しはっきり示すというか、多分苦渋のなかからこの目標って出てきていると思うので、私の考え方としてももう少しはっきりそのことがわかるような打ち出し方をするっていうことには反対はしないんですけども。

○「図書館のための図書館」道内の図書館たる図書館であるならば、さっき仰ったようにどこかにフォーカスしてこの3つでがんばる、この領域でがんばる、後は悪いけれど各自治体の図書館でお願いねってというような割り切りがあってもいいんじゃないでしょうか。

岩見沢の図書館にお邪魔したことがあるんですけど、地元のコバルト小説の氷室冴子さんですか、小さい書棚ではあるけれど、岩見沢でなきゃいけない展示ってすごく大事にして、ここを膨らましていこうという意欲が小さい書棚に感じられるんです。

ここはそういうことをするところではなく、新しいチャレンジだとか新しい実験をするところだと思うんですよ。

そういう意味では、ここで来館者数を競ったり、レファレンスの数を競ったりする場所じゃないんじゃないかなっていう先ほどの意見に共感します。

それをやるためには外から血をどんどん入れていって、交流がおきないことには進んでいかない。

こういう会議はそういう1つの会議じゃないかなって思っている。

○今の意見に特に反対はしなくて、積極的にできればいいなと思います。

もう少し個別の、子ども読書活動とか、北方資料サービスは道立図書館のすごく大事な役割ですし、図書館の連携もそうですし、資料整備もそうなんですけど。

もう少し御意見いただきたいんですけど、いかがですか。

○個人的にはレファレンス、貸出、来館者数も全部北方資料とほかの部分に分けるべきだと思っている。

北方資料サービスはすごく大事なサービスで、これは道立図書館がしっかりやっていたかなければならない部分で、ここはレファレンス件数であったり、レファレンスデータベース登録件数であったり、もちろん貸出件数であったりとか、どのくらいの人 coming いるのかだとかそういうことをしっかり知りたい。

○だから今までの議論なんですね。道立図書館への地域とか社会の要請のなかで「図書館の図書館」としての役割だけでなく、地域にある図書館として一定の役割をする。

しかし、それは限界があるのでここでの色々な取組が道内の市町村立図書館のモデルとなるような取組としてそういうことをやるんだ、とそういう位置付けだったと思うんですけど、そのバランスを一生懸命取っているんですけど、委員の皆さんはそのところを割り切って道立図書館として独自の役割っていうのは市町村立図書館をある意味支援する役割を中心にやっていく。

そういう立場だと北方資料サービスはすごく大事だからほかの数字よりもっと大事にする。

○「図書館の図書館」って本当に感じているのか、自分は感じられない。

自分は小さな美術館の経営に携わっている理事の1人ですけど、近美や芸森から何か学ぶべきことはほとんどないんですよ。

何か新しいことを生み出していこうとするなかで大きい道立や大きい市町村立に学ぶべきことはほとんどないんですよ。図書館の場合はたまさか図書の貸出しがあるので、資源的な「図書館の図書館」という役割はあると思うんだけど、このままの道立図書館に学ぶべきことって本当にあるんでしょうか。

「図書館の図書館」になるためのノウハウを、小さな図書館に先んじてつくっていく意欲が必要なんじゃないかと申し上げたいんですよ。

それが、我々委員の一人一人の貴重な時間を使っていくことが今後の役割じゃないかな。こういう役割を新しく作ったらどうですかというところに、お金がないとか、そういうことを言い出したらレゾンドートル（存在価値）がなくなっちゃうと思うんですよ。決して悪い建物ではないんですよ。

けれど辺鄙ですよ。辺鄙なところに人を上げるためには、ものすごい魅力がなければならぬ。

○それは全然否定していませんよ。今の市町村立図書館の水準からするとものすごく不十分な施設ですよ。

○それは図書館として考えれば。「図書館の図書館」として考えるならば図書館として不十分であってもさっき仰った北方圏はむちゃくちゃ充実していて、それがインターネットで世界中につながっている機能だって、そこに厚く資源を投入していくとか、濃淡をつけていけば決してここが図書館として不十分な施設だといえなくなると思うんですよ。

○では、最初の寝られるベッドの話をお破算にするんですよ。

○寝られるソファにしていくっていう話があるからそこに特化して行って、みんな寝泊まりしながら24時間開いている図書館があったら素晴らしいじゃないですか。

○どちらも反対じゃないので、どちらを重点にするんですか。

○ここは雑多な議論をしているだけで、真剣に戦略会議をどこかでやるべきじゃないでしょうか。

○それを問題提起として受けとめて考えたいと思います。

子どもの読書活動について、さっき御挨拶のときにいろいろと紹介してくださったんですけど、何かそのことと係わって特に付け加えとかそういうことはございますか。

○子どもにとって読書と言ったら図書館、学校で言えば図書室で、すごく大きな存在だと思っていて、年々充実してきていると肌で感じていました。

後半は特に勤務先が恵まれたところだったので、そういうところで、市立図書館と連携して本を貸し出していただいたりして、だんだん進んできているなあと感じておりました。

どんどん続けてほしいと思っています。

恥ずかしい話ですが、自分が道立図書館に調べ物をしようとして来たことは一度もな



いというか必要がなかったんですね。市内の図書館で十分間に合ったし、ここまで来る必要性も感じなかったし、求めてもいなかった。

道立図書館は市町村立図書館の支援をすとか、見本を示してくれるとか、引っ張ってってくれるとか、調整してくれるとか、そっちの方をしていると漠然と思っていたので、ここで市町村と同じ機能を求めても、違和感があります。

さきほどからの話にもありますように、ここでなければできないことを目指していくことにウェイトを置くことは必要ではないかなと考えております。

○札幌駅周辺からであれば、札幌市立図書館に行くよりはこっちの方がずっと近いんですね。

地下鉄と市電を乗り換えて行かなきゃならないけれど、こっちは JR 一本なので。

身近な図書館として使っている方も、ある程度いらっしゃるわけです。

そういうこともあって「図書館の図書館」の役割だけでなく地域の人に開かれている図書館と両方を追求してきたわけですけど、今日の議論はどちらかということ、道立図書館としての使命をメリハリをつけた方がいいんじゃないかという意見なんです。

それはそれで理解できるんですが、今まで少なくともそういう考えでおそらく進めてきたと外から推測するだけで、実際にはそういう（地域の）人たちも利用している。

勿論、北方資料室には学生さんたちも一日中そこで仕事をしたりっていうこともありますし、専門で勉強したりする人が一日中使うっていうこともあります。

どうもありがとうございます。

北方資料サービスはいかがですか。

意見がお二人の方からでたんですけど。

多分、今までの御意見を踏まえると、北方資料サービスのこういう資料があってこれを活用するができるんだってことを積極的に発信することが大事なんでしょうね。

さっきの回想法っていうのも、そうだけど。

それをどういう媒体で誰に知らせるようになるのかっていうのが、一番大事なんだと思います。

次に「新しい北海道立図書館事業推進計画」について、説明していただきたいと思っております。

## （２）新しい北海道立図書館事業推進計画について

伊藤総務企画部長説明・・・資料４・５

伊藤利用サービス部長説明・・・資料６

○先ほどの議論を踏まえれば、６つの施策目標が同じようなバランスで作りに上げられている事態についても、おそらく御意見があると思います。

１２月に予定されている協議会前に、道立図書館のミッションを準備していただいて、それを踏まえて新しい北海道立図書館事業推進計画に反映させる作業が必要になるかなと、今思っています。

まず、６つの施策目標の一つ一つについて御意見を伺う前に、枠組みについて御意見ありませんか。

○「あなたの知りたいを解決します」のなかに、道議会が入っているのが違和感があり

ます。

議会サービスと道民サービスは質が違っていると思うので。議会サービスは道立図書館でなければできない。しっかりと充実させていかなければいけないサービスだと思っているので、一般道民向け課題解決型サービスのなかに議会図書室、行政サービス、地域の活性化支援を枠のなかに入れるのは違和感があると思います。

○全体の枠組みの問題として。ここにこれが入るんだということではなく、枠組みとしてはいかがですか。

○市町村立図書館のやっていることと議会図書室の存在がここでしかできないこと2番と3番に混在しているようなイメージがします。

そこが整理が必要かなと思っていることと、枠ということであれば来館型サービスと非来館型サービス、アウトリーチになっているんですけど、ここは混在させるより独立させた方がいいんじゃないかと。

○道議会サービスと地域住民を一緒にするのはっていうと、地方自治の担い手を図書館がどうのように育てるのか、育つことに係わることができるのか、片山さんが「地方自治と図書館」の中で、そこに議会図書館を利用してって言っていたんですけど、今御指摘の道立図書館がどういう役割を果たすかっていう論点に係わる部分なのでこれも、みなさんと議論しなければいけないと思っています。

枠組みのことで、皆さんいかがですか。

枠組みは当然、道立図書館のミッションに係わるので個別の話ではなく大きな話し合いの場を、真ん中にもたなければまとまらないと思うので。

○知らないのを教えていただきたいが、4番の「子どもの生きる力をはぐくみます」は道立図書館の柱の6つの1つなんですか。ここがよくわからないんです。

例えば、道内では剣淵の試みが先進的ですが、そこに対し「図書館の図書館」とかサービスを供与できるような意欲とかパワーを持っているのかな、というところがよくわからないんですけど。

●子どもの読書活動の推進については道立図書館単独の取組としてよりは、道教委としての取組のなかの一実施機関という形での事業内容というように考えておきまして、道教委は色々な事業の企画、予算も含めてやりますけれど、現実に動いていくとなると、本がある図書館、意見や相談ができる職員として、道立図書館が実働部隊として色々な市町村に出かけて事業をすることができる。そういう役割を担っているのではないかと思っている。

○それぞれの事業計画、市町村支援だとか課題解決型サービスだとか、それぞれで皆さんから御意見、枠組み全体を議論するとちゃんとするけれども、個別の御意見も伺っていききたいと思います。

○枠組の6番ですが「民間企業・団体、ボランティア等の連携」はとても大事だと思うんですね。無策に連携するといっても向こう側にメリットがなければ、図書館と連携したいとちっとも思わないんですけど。民間企業が道立図書館なり図書館とつながることにどういうメリットがあるとお考えなのか。

インセンティブ（誘因）といってもいいんですけど。

あるいはボランティア個人は、道立図書館でボランティアすること、係わること、つながることにメリット、インセンティブがあるのでしょうか。

それもなしに民間企業、ボランティアとつながるって、つながれたらそれでいいんでしょうけど、向こうとしても忙しいし、図書館のことなんか知ったことじゃないよとなりはしないかと、そこが心配なんですけど。いかがでしょうか。

●具体的な例ですと、7月30日に図書館まつりを実施しまして、そのなかで北菓楼に館内出店いただきました。

北菓楼にしてみると、北1条にある歴史的建造物に札幌本館として店舗を構えててそこに一番最初に入っていた図書館がまつりをやるので出店する。

札幌の本店に来ない図書館の利用者に対するPR効果というメリットが、どのくらい大きいのかはわかりませんが、連携をすることによって、今後販売を拡大して行って、例えば札幌の本館には三岸好太郎の絵を展示してありますけれど、そういうような連携の取組というのを図書館としてもやっていけないのかというつながりをつくって、双方、北菓楼さんの方もそういう取組をすることによって、PRしてくれる。

こちらとしても利用拡大につながる。その辺を見いだしていければと考えている。

○私、北菓楼本店好きなんですけど、この図書館だってあんな可能性だってありますよね。北菓楼もここに出店するくらいの迫力で関わっていただけるならいいんですけど。

お題目としての民間企業やボランティアとの連携というよりは、ビジョン、さきほど先生はミッションと仰ったけれど、ミッションをもってお互いのメリット・デメリットをどう補い合っていくかという戦略が必要なんじゃないかなと思ったものですから。

○石狩の図書館のような雑誌の購買を民間企業にお願いして、民間企業は広報っていう手もある。そういうことも含めて考えてらっしゃる。

●はい。雑誌スポンサー制度、これは民間企業が閲覧室に掲げている雑誌の表紙の部分に社名を掲示する一種の広報効果とHPにもスポンサー企業として掲載しますので、道立図書館のスポンサーになっているということで一種の社会貢献活動をしているというPR効果があるのではないかと。

そういう部分に御賛同いただける企業にスポンサーになっていただくという取組も今進めているところでございます。

○ほかにそれぞれの項目で意見ございませんか。

○意見ではないのですが、「1 まちの図書館を応援します」の市町村立図書館等の活動支援のなかに「公民館図書室等への調査訪問を含んだ運営相談等事業の推進」ってありますけれど、どんな感じで進めていくんですか。

●今までは希望のある町村に対して、道立図書館が訪問していたんですが、逆に道立図書館から（事業を）利用されていない町村にこちらから積極的にアプローチしていくという趣旨です。

何故、支援事業を使っただけでないのかとか具体的に突っ込んでいこうと考えています。

○調査しながら支援していくような感じですか。

●その図書館が何を必要としているのかということをお聞きしながら、うちのメニューを提示して、相手方のニーズに応じてやっていくということを想定しております。

○公民館図書室だけですか。

●公民館図書室だけでなく図書館としてもまだ御利用いただけていないところがありますので、垣根を設けなくて、（事業の）希望のないところへアプローチしていきたいと考えております。

○全く図書室・図書館のないところって、あるんですか。

●全道では、現在公民館図書室のないところはございません。

図書館設置がないところはございますけれど、図書室のないところはございませんので教育委員会を通じて訪問させていただいて、実際何がお困りなのか、何か支援できるところはないのか、利用の少ないところが固定化というのが課題意識としてありますので、そういうところに積極的に働きかけて、お話しを伺い、支援していく方向性をもって仕事をしていきたいと考えました。

○どのように運営されているかは別だけれど、手がかり足がかりのない市町村は今のところないということですね。

公民館図書室にいくと、道の大量貸出のコーナーがしっかりあって道立図書館ががんばっているんだっていう感じに出会うことがあります。

○図書館ボランティアの研修の実施ですが、個人ボランティアがグループ化して研修を申し込んだら、してくれるんでしょうか。

それとも、この研修に参加させていただけるんでしょうか。

○それぞれの市町村の公民館図書室として道立図書館に来てもらえるよう努力した方が、私はいいと思いますよ。

○ボランティアってどういうイメージをされているんでしょうか。どういう職種とかどういう仕事をイメージされているんでしょうか。

○例えば読み聞かせをすとか、人形劇、あるいはもっと進んで本をきれいにすとか、様々な形ですよね。

佐賀県の伊万里市図書館では、図書館運動から図書館ができてNPOがつくられて図書館で活動するボランティアにNPOからお金を出して支援する。いろんな形の活動がある。ある意味市民が図書館の指令に基づいてやりたいことができるところが図書館だという。そういうようなことをきちんと考えながら、道立図書館がどのようなことを地域の人に係わってもらうことが道立図書館として始めるのが相応しいかっていうことを考えた上でボランティアとの関係を築いていくことが大切です。

○これからはボランティアの人が補助的な仕事をするというのを抜け出でて、まさに図書館業務の一番面白いところに市民がはりついて、例えば選書に関わるとか、さっき読み聞かせって仰ったけど市民に関わるところに関わるとか、場合によってはこういう会

議の場にボランティアさんが出てきて、どういう面白いアイデアがあるだろうか、とかやるようなボランティアをデザインしていかなきゃならないんですよ。

ボランティアをどういうふうにデザインすべきか、企業参加をどういうようにデザインすべきかをまず議論して、図書館における企業参加のあり方とかボランティア参加のあり方に、企業や市民がワクワクしながら、単純に広告になるとかだけでなくウィーンウインの関係が構築できるような関係を構築できるような企業の参加のあり方みたいなのをこの場ではないかと。

そこで範を示して、道立図書館でこういうやり方でやっているなら、自治体でもやってみようって上から下へアイデアが流れていくことも必要じゃないかと思うものから。

○そうですね。住民の皆さんがどういうことをやりたいかということを知るのが、一番最初のことだと思います。

予定の時間も過ぎてきました。

今日は皆さんから活発な御意見をいただきました。

それでは予定されていた議題を終了したいと思います。

また話し合う場を設けますが、それまでに新しい道立図書館事業推進計画について詳細な御意見等がありましたら、8月31日くらいまでに事務局に連絡してください。

●ありがとうございました。

それでは、最後に館長から一言申し上げ、閉会といたします。

●第1回北海道立図書館協議会の閉会に当たり、一言お礼の御挨拶を申し上げます。

本日は、平成28年度の業務実績と新しい事業推進計画について御説明をさせていただきましたが、長時間に亘り、極めて熱心な御協議をいただき、誠にありがとうございました。

業務実績につきましては、計画どおりに進んでいる事業がある一方で、進捗状況に遅れが生じ、目標に達していない事業もございまして、委員の皆様からいただきました貴重な御意見や御助言を踏まえまして引き続き目標の達成に向けて、私ども職員一丸となって事業の推進に取り組んで参りたいと考えております。

また、新しい事業推進計画につきましては、本日委員の皆様からいただきました示唆に富んだ多くの御意見や御提言を踏まえながら私どもとして検討を加え、次回12月上旬に開催を予定しております協議会におきまして、計画素案をお示しし、改めて御意見をいただきたいと思いますと考えております。

なお、先ほど会長からお話ございましたとおり、道立図書館のミッションに関わつての御協議・御意見などの集約につきましては、別途会長と私ども事務局との間で協議させていただいて連絡させていただくということで、御了解いただければと思っております。

いずれにいたしましても、道立図書館の役割・機能のあり方については、私どもといたしましても極めて大きなテーマとして押さえておりますけれども、かねてより道立図書館には運営に当たつての憲法ともいべき基本方針というものがございます。委員の皆様には十分御案内かと存じますが、その運営の基本方針を改めて申し上げますと、図書館のセンターとしての「図書館の図書館」、参考図書館としての「何でもわかる図書館」、全域サービスの図書館としての「道民みんなの図書館」でございます。今後とも、この3つの運営の基本方針に基づきまして、図書館機能のさらなる充実に努め、広く道民の皆さまへのサービスの向上と展開を目指して参りたいと考えておりますので、引き

続き委員の皆様には御指導・御助言をいただきますようよろしくお願い申し上げます。  
以上、簡単ではございますが、閉会にあたっての御挨拶とさせていただきます。  
本日は、誠にありがとうございました。